

## ウ 小児がん

### <現状と課題>

「がん」は、小児の病死原因の第1位ですが、年間患者数は2,000人から2,500人と少なく、小児がんを扱う施設も限定されています。

そのため、国は、小児がん患者が適切な医療を受けられ、患者の教育や自立、患者を支える家族への支援等を行う「小児がん拠点病院」を全国で15か所指定し、整備していく予定です。

県内での年間の新規患者数は20人程度(平成20年福井県がん登録)であり、その治療の多くは、福井大学医学部附属病院で実施されています。

小児がんに関する医療を充実させるとともに、患者の教育や自立と患者を支える家族に向けた長期的な支援が課題となっています。

### ●国指定の「小児がん拠点病院」一覧

ブロック	都道府県名	医療機関名
北海道	北海道	北海道大学病院
東北	宮城	東北大学病院
関東	埼玉	埼玉県立小児医療センター
	東京	国立成育医療研究センター
	東京	東京都立小児総合医療センター
	神奈川	神奈川県立こども医療センター
東海・北陸・信越	愛知	名古屋大学医学部附属病院
	三重	三重大学医学部附属病院
近畿	京都	京都大学医学部附属病院
	京都	京都府立医科大学附属病院
	大阪	大阪府立母子保健総合医療センター
	大阪	大阪市立総合医療センター
	兵庫	兵庫県立こども病院
中国・四国	広島	広島大学病院
九州	福岡	九州大学病院

### <取り組むべき施策>

- ・ 国の「小児がん拠点病院」との連携体制を構築し、福井大学医学部附属病院を県内の小児がん患者への診療支援やセカンドオピニオンなどを中心に行う施設として位置付け、県内の小児がん患者の支援体制を強化します。
- ・ 小児がんに関しては、子どもが成長過程にある中でがんに向き合うことになるため、「ホスピタル・プレイ・スペシャリスト」等の専門家が、療養中の小児がん患者やその家族の精神的負担を遊び等を通じて軽減し、主体的に治療に臨めるように支援するなど、小児に特有な心理的・社会的な問題に関する支援体制を整備します。

### <個別目標>

項目	現状値	目標値	期限
小児がん患者をサポートする人材の派遣	未整備	1回/月以上	5年以内